

## 農園通信 11月



富士山の初冠雪が最も遅れたこの秋、暑さと寒さが入り乱れ、秋であるのかどうか、疑念を抱くような11月。5日、サツマイモの葉先に霜による枯れた状態が見られ、前日に霜が降りたようです。



サツマイモ組の収穫が終わり、畑は静まり返っています。今年は例年になく、収穫量に期待して、十分な持ち帰り準備をした学生がたくさんいました。

品種による収量差は比較的大きく、収量に恵まれない学生もいました。



品種によっては8月中の乾燥の栄養を受け、“ゴボウ根”状になったものも数多く見られました。8月、猛暑と乾燥、そしてゲリラ豪雨の影響を受けて生育したサツマイモの姿でした。



農園ではサトイモも栽培していて、学生に持ち帰ってもらいます。

サトイモがどのようにできるのか知らない学生がほとんどのため、毎年、写真のような標本を飾っています。

また、流通に乗らないため、手にすることのない親芋も持ち帰り用として準備しています。一度持ち帰った学生が食べてみて、再度、持ち帰る様子も見られました。





キャベツやブロッコリーが例年になく高騰しています。しばらくすれば落ち着くだろうというのが農水省の見解。学生が作っているキャベツなどは順調に生育し、重い思いをしながら持ち帰っています。

そんな中、非常に不作なものがあります。柚子です。隔年結果性で今年は不作年に当たるとのことです。農園にある柚子は5個だけ収穫でした。例年ならば“柚子湯に”と冬至近くなると渡すのですが、今年はできません。また、獅子柚も同様で、実がついたのは1個だけです。

蜜柑はたくさん結実した。青い頃には蜜柑シロップを作って喉を潤してもらいました。これがなかなか好評で、「もうないの」という声も聞かれました。



どこか近くに巣があるのでしょう、農園を飛び回るスズメバチを見ることがあります。実習中に見かけて時は学生に声をかけ、また殺虫剤も準備しています。

寒さが少し厳しかった朝、網戸にとまっているかのように張り付いていました。寒暖差の大きさがこんなところにも影響しているのでしょうか。